

本学初の試み、横浜祭がオンライン形式で開催

第25回東京都市大学横浜祭が6月5日と6日の両日、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、完全オンライン形式で開かれました。オンライン学園祭は、本学初の試みでした。課外活動団体17、研究室4など、計22団体が参加。YouTubeに「横浜祭企画チャンネル」と「参加団体チャンネル」の2つのチャンネルを開設し、横浜キャンパスの特色である「地域」「情報」「環境」にちなんだ企画として、マインクラフトによる横浜キャンパスの再現やeスポーツ大会といったオンラインならではの企画が披露されたほか、飯島健太郎研究室による「早淵川・老馬谷ガーデンプロジェクト」などの取り組みが紹介されました。2つのチャンネルの合計視聴回数は、同月21日現在で6,760回を記録するなど、成功裏に実施することができました。この取り組みの知識と経験は、等々力祭、世田谷祭にも引き継がれ、横浜祭のテーマ「挑戦」にふさわしい学園祭となりました。



横浜祭 1：本学で初めてオンラインで実施された横浜祭（2021年6月5日撮影）



横浜祭 2：横浜祭でオンライン向けにあいさつする飯島健太郎教授（右）（2021年6月6日撮影）

加速するデジタル化とパソコン必携化の取り組み

2021年度より、本学において「パソコン必携化」の取り組みが始まりました。新入学生を含む、すべての都市大生がパソコンを使って授業を受け、コンピュータやインターネットを活用したAIの基礎学習やプログラミング演習といった数理教育に対応することはもちろん、eラーニング教材による自己学習などに対応していくことが目的です。2020年春から始まった、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施されている「ハイブリッド型授業」「オンライン型授業」ともあいまって、キャンパス全体のデジタル化が加速しています。授業の現場においては、必携化以前は手書きで実施していた授業内レポートの作成とその提出がパソコンによって行われるようになるなど、確実に取り組みの効果が出ています。併せてパソコン購入相談や学内VPNの強化、システムのスケールアップがすでに進行しており、ますます情報システムを活用した教育が進んで行くでしょう。



PC 必携化：すべての新入学生がパソコンを使って授業を受けた（2021年4月9日撮影）

環境情報学研究科のウェブサイトが開設されました

これまで、大学院環境情報学研究科に関する情報は、大学のウェブサイト内にのみ掲載されていましたが、2022年1月に研究科独自のウェブサイトが開設されました。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを含む研究科の特徴が記載されているほか、担当教員、各種入試情報などへのリンクなどが集約されており、日本語版と英語版が用意されています。また、表彰やイベントなどの最新ニュースも閲覧でき、研究科に関する情報を入手したい方にとって利便性の高いサイトになっています。本サイトは、メディア情報学部の学生が中心となって起業した合同会社Steg (<https://team-steg.com/>) によって制作されました。東京都市大学のアイデンティティカラー“TCUブルー”を基調としたデザインで、今後のサイト更新の労力にも配慮した作りになっています。

環境情報学研究科ウェブサイト：<https://www.comm.tcu.ac.jp/gseis/>



都筑区総合庁舎において第19回「地域連携調査研究発表会」を開催

2022年2月24日に第19回地域連携調査研究発表会が開催された。この会は都筑区との連携事業の一つとして、都筑区が都市大とおこなっている取り組みを紹介するほか、主に都筑区を対象とした調査研究を発表する場となっている。2019年度と2020年度はコロナ禍により開催が中止されたため、3年ぶりの開催となった。

当日は佐藤友也都筑区長を含めた区職員が区役所会議室に集まり、発表者や一般参加者はオンライン参加となるハイブリッド形式として実施され、総勢50名が参加した（会場14名、発表者10名、参加者26名）。

前半は都筑区との連携事業の紹介として、都筑区側の説明に続き、環境経営システム学科のSD PBL(2)の授業に関連する発表や、選挙啓発活動について紹介がされた。後半は環境学部から2題、メディア情報学部から2題の研究発表がなされ、盛んな意見交換がおこなわれた。

また、発表会と併せて都市大の研究内容を紹介するパネル展も都筑区で同時に開催されている。

